



永源寺ダム管理支所
戸田さん

私の仕事はダムの管理

永源寺ダムでは、農業用水の安定的供給を図るため、職員5名と委託職員2名により24時間体制で施設を管理しています。また、洪水に対して迅速な対応ができるように、気象情報に注意を払い安全なダム管理に努めています。



基盤整備第三係
奥野さん

私の仕事は農地整備

農業者の後継者不足により、個別完結型から集落営農法人などの担い手への経営に移行しています。集落営農では耕作者の減少を補うため効率化がはかられています。そのため、農業機械は大型化し、不整形な田んぼでは耕作しにくくなっています。このような状況から水田の大区画化、農道や用排水路等の整備を行っています。



基盤整備第一係
浅井さん

私の仕事は水路や施設の整備

地区内の排水機能を強化し、農地が水に浸かるのを防ぐことも大切です。琵琶湖周辺には湖の水面よりも陸地の高さが低い所があり、排水不良により農業に支障をきたす地域があります。そのため、ポンプ設備を設けて強制排水し、持続可能な農業の実現を目指します。



農業の基盤

水を支える人たち

一級河川愛知川の上流に位置する「永源寺ダム」の管理等を担当する東近江農業農村振興事務所働く人々にスポットを当てた

永源寺ダムとは

愛知川は、洪水が起これば氾濫して大きな被害を及ぼし、日照りが続けば川から水がなくなり、農業用水としては大変不安定な水源だった。

このような状況から昭和26年にダム事業が計画され、翌年には事業着手となった。その後、各種調査、設計が進められ、ダム建設には、213戸が移転を余儀なくされたが、昭和34年に工事着手となり、昭和47年10月「永源寺ダム」が完成した。総貯水量は2312万m³(東京ドーム18杯分)であり、東近江市、近江八幡市、愛荘町および豊郷町の2市2町にまたがる。受益面積約6900ha、県下有数の穀倉地帯の水源となっている。

取材を終えて

農業の基盤となる水、農地、水を運ぶためのポンプや水路の大切さを知った1日だった。一言でいうなら、何事も目に見える部分だけに捉われるのではなく、土台や礎という見えない部分を安定させる大切さを認識したということである。「農業農村振興事務所」と聞くと、どんな作物を作り、農業の魅力をどう伝えるかを担う課と思うだろう。しかし、それだけでなく農作物を植える前準備である区画整理、用排水路や農道整備、農機

の導入、水管理の省力化等も重要であり、その課の人々の存在なしには農業は成り立たない。我々にとっては店頭に並ぶ野菜や米が、手元に届く過程は、イメージしやすい。しかしその手前部分であるハード面を支える人々は、見えにくく、ともすれば地味といわれるかもしれない。しかし、実は一人でも欠けたら、安全安心な暮らしが送れない。そんな誇りを持つ専門家、職人とも言える人々の語りに魅了され、ワクワクした日だった。